

特集

彩の国シエイクスピア・シリーズの  
10年を振り返る



【NINAGAWA 十の目】

まなざし

作家 松井今朝子 × 蜷川幸雄

(財)埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

# INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.13 Jan.- Feb.

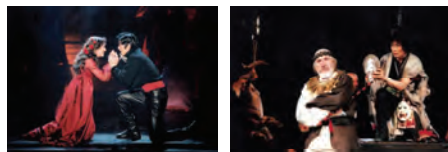
## 03 ESSAY



「Hydra ヒュドラ」(世界初演)  
**緒川たまき**

国や時代を超えて彷徨っている感じ

## 彩の国シェイクスピア・シリーズの 10年(1998-2007)を振り返る



10年18本はシェイクスピアのホームラン王だ!

## 04 PLAY



公開対談 NINAGAWA 千の目 第11回  
**松井今朝子×蜷川幸雄**

小説と歌舞伎・芝居の一線を越えて



## 10 TALK

talk・talk・talk 第9回  
**インバル・ピント・カンパニー 「Hydra ヒュドラ」**  
(背骨)のない人、(背骨)を探す人という作品



「死の天使」**ヤン・ファールブル**  
videodance2008 シリーズ2  
イヴァナはフォーサイズと変則共演

## 14 Dance Performance 2008-2009

恒例のコンドルズ、コーラーを見なきゃ!



## 16 MUSIC

パッハ・コレギウム・ジャパン  
2大パッハ作品へ表現者としての挑戦  
**鈴木雅明**

時をまたいでマタイ受難曲

## 18 Concert Calendar 2008-2009

会場いろいろに音の彩り

## 20 EVENT SCHEDULE & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2008.1.15-3.31  
前売りチケット発売情報(〜3.22) 発売中公演情報

## 23 THEATER BRIDGE

イベント告知、募集など劇場からのご案内

## 24 Artist Diary 児玉 桃

『バリのマルシェで』  
鳥たちはとりあえず鳴きやんだ

表紙「身毒丸」ファイナル 2002年  
PHOTO:西村 淳 ILLUSTRATION:山本 翠 Artist Diary (取材・構成):高野麻衣  
編集:横山善美 デザイン:ATAMATOTE International INDEX コピー:BASON  
©(財)埼玉芸術文化振興財団  
Published on 15,JANUARY 2008 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation



インバル・ピント・カンパニー『Hydra ヒュドラ』(世界初演) 11月11日公演より

## 緒川たまき

インバル・ピント・カンパニーのダンサーは美しい。これは彼らの以前の作品「オイスター」や「プリーズ」を観た時にも共通して思ったことですが、「無駄の無いしなやかな身体」というより、「繊細で、まるで花の蜜だけを吸って生きているみたいに可憐な」という表現の方が近い感じでした。

今まではこれがイスラエルのお国柄なのかなと思っていましたが、今回、日本人ダンサーの大植真太郎さん、森山開次さんのお二人が加わった「ヒュドラ」においてもその思いに変わりなく、これはもうインバル・ピント・カンパニーの特色なのだと思得した次第です。

ダンサー達の優雅な美しさが、国や時代を超えて彷徨っている感じを抱かせてくれて、なんだか胸のあたりがキュウウとなりました。

「ヒュドラ」は、宮沢賢治の世界をモチーフにした作品と聞いて、てっきり童話的な世界が絵本をめぐるように展開するのだろうと思っていましたが、樹々の間を風が運ぶものをじっと見つめているような静かな豊かさでも言うのでしょうか。まさに自然観察をライフワークとした宮沢賢治の世界そのものだと思います。

動きを止めた女性ダンサーが、細い棒によっていとも容易く運び去られるシーンの哀しいほどの美しさが今も忘れられません。

「ヒュドラ」を観ながら私の脳裏に浮かんだのは、つい数日前の出来事です。部屋に飾っていた真つ赤なガーベラが、萎れる事なく綺麗な色のまま枯れていきました。その様子があまりに美しかったので、もうしばらく眺めるつもりでそのままにしていたら、ある日花びらの下に見慣れない薄紅色のふわふわした塊を発見しました。タンポポの綿毛を大きくしたような薄紅色の物体、なんとそれはガーベラの種子でした。

どこか相応しい場所へと運ばなければと思うまじうほど儚げな佇まいに、とても感動しました。私の日常に突然現れて、目を釘付けにしまった薄紅色のふわふわした存在。「ヒュドラ」の世界と重なるものを感じました。

おがわたまき◎1972年生まれ(映画)「UP」で女優デビュー後、TV・映画・舞台に活躍。女優業以外にもTVのパーソナリティや、本人振りおろしによるフォトエッセイ集を出版するなど、多方面での活動も持つ。07年には舞台「広島に原爆を落とす日」でゴールデナローイ賞・演劇新人賞、08年には「Fサライ・フック」で高橋映画賞・優秀助演女優賞を受賞。2008年11月には映画「臨陣に次」で監督・原田雄一(財)が公開予定。

# 彩の国シェイクスピア・シリーズが 駆け抜けた10年間。 その先に見る光

昨年、彩の国シェイクスピア・シリーズ (SSS) が1998年の第1回公演から10周年を迎えた。その間に上演された作品は17作 (歴史劇1、悲劇7、喜劇9)。シェイクスピアの作品数は37なので (共作含む)、半分の作品が上演されたことになる。演目も『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』など有名作品から『ペリクリーズ』『恋の骨折り損』のようにイギリスでも稀にしか上演されない作品まで多岐に亘っている。



第2弾  
『十二夜』 (小ホール)  
1998年10月9日～10月31日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：富樫真 鶴見辰吾  
宮本裕子 ほか



第3弾  
『リチャード三世』 (大ホール)  
1999年2月13日～2月28日  
演出：市村正親 翻訳：松岡和子  
出演：市村正親 有馬稲子  
久世星佳 ほか

第1弾  
『ロミオとジュリエット』 (大ホール)  
1998年1月21日～2月1日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
ロミオ/大沢たかお ジュリエット/佐藤藍子  
乳母/片桐はいり ロレンス神父/渡辺哲 ほか

それは運命の出会いだ。ヴェローナの厳格する家に生まれたロミオとジュリエットは、一目で恋に落ちる。しかし、その恋が仇となり、運命の歯車は破壊へと回り出す。やがて、手強いと勘違いが重なって、最後は自ら死へと疾走する。記念すべきSSS第1弾公演。



第5弾  
『夏の夜の夢』 (大ホール)  
2000年4月28日～5月3日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：小田島雄志  
出演：遠川哲朗 白石加代子  
宮本裕子 ほか

第4弾  
『リア王』 (大ホール)  
1999年9月23日～10月11日 (RSC共同製作)  
演出：蛭川幸雄  
リア王/ナイジェル・ホーソン 道化/真田広之 ほか  
ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー  
＜イギリス ロンドン パーバカンシアター公演、  
ストラットフォード・アポン・エイヴォン公演＞



第8弾  
『マクベス』 (大ホール)  
2001年3月16日～3月25日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：唐沢寿明 大竹しのぶ 勝村政信  
六平直哉 高橋洋 ほか  
＜アメリカ ニューヨーク BAM公演＞



第6弾  
『テンペスト』 (大ホール)  
2000年5月27日～6月4日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：平幹二朗 寺島しのぶ  
鈴木一真 ほか



第7弾  
『冬物語』 (小ホール)  
2000年7月20日～7月23日  
OUDS (オックスフォード大学演劇協会) 作品  
監修：蛭川幸雄 演出：ピーター・ハーネス



第9弾  
『ウィンザーの  
陽気な女房たち』 (小ホール)  
2001年5月11日～5月27日  
演出：海上高史  
監修：蛭川幸雄  
翻訳：松岡和子  
出演：江守徹 江波杏子  
宮崎美子 ほか

第10弾  
『恋の骨折り損』 (小ホール)  
2001年7月20日～7月22日  
OUDS (オックスフォード大学演劇協会) 作品  
監修：蛭川幸雄  
演出：サム・ワズ



第14弾  
『お気に召すまま』 (大ホール)  
2004年8月6日～8月21日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
ロザリンド/成宮寛貴 オーランドー/小栗旬  
前公爵/吉田鋼太郎 タッチストーン/菅野 菜保之  
ジェイクス/高橋洋 シーリア/月川悠貴  
シルヴィアス/大石継太 ほか

第11弾  
『ハムレット』 (小ホール)  
2001年9月14日～9月28日  
演出：蛭川幸雄  
翻訳：松岡和子  
出演：市村正親 藤原涼子  
夏木マリ ほか



第12弾  
『ペリクリーズ』 (大ホール)  
2003年2月19日～3月16日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
ペリクリーズ/内野聖陽  
タイザ、マリナ/田中裕子  
ガワー、女郎屋のおかみ 他/白石加代子  
アンタイオカス、女郎屋の亭主 他/遠川哲朗  
ガワー、ライシマカス 他/市村正親 ほか

◎谷古正彦

タイア (古代シリア) の領主ペリクリーズは、王家の秘密を知ったことで命を狙われる。逃亡中に妻を亡くし、娘マリナとも生別れ、悲嘆に陥る。後には世捨て人となる。月日は流れ、マリナとの再会を果たした後に、女神ダイアナの導きで奇跡が訪れる。英国でも上演、第3回朝日舞台芸術賞グランプリ、第11回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。

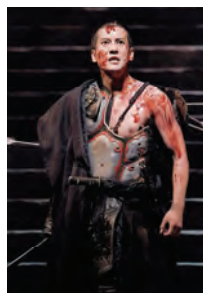


第13弾  
『タイタス・アンドロニカス』 (大ホール)  
2004年1月16日～2月1日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
タイタス/アンドロニカス/吉田鋼太郎  
タモラ/麻実れい  
マーカス/アンドロニカス/萩原流行  
サターニナス/鶴見辰吾  
ラウニア/真中睦  
エアロン/岡本健一 ほか  
＜再演＞2006.4.21～5.7  
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
＜イギリス ストラットフォード・アポン・エイ  
ヴォン公演、プリマス公演＞  
吉田鋼太郎 麻実れい 小栗旬 真中睦  
嶺 暁彦 鶴見辰吾 ほか

◎高松光司



第15弾  
『間違いの喜劇』 (大ホール)  
2006年2月3日～2月19日  
演出：蛭川幸雄  
翻訳：松岡和子  
出演：小栗旬 高橋洋  
内田滋 月川悠貴  
鶴見辰吾 吉田鋼太郎  
遠川哲朗 ほか



第16弾  
『コリオリエナス』 (大ホール)  
2007年1月23日～2月8日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：唐沢寿明 白石加代子 勝村政信  
香寿たつき 吉田鋼太郎 遠川哲朗 ほか  
＜イギリス ロンドン パーバカン・シアター公演＞



第17弾  
『恋の骨折り損』 (大ホール)  
2007年3月16日～3月31日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：北村一輝 美輪雄  
窪塚俊介 高橋洋 内田滋  
月川悠貴 中村友也  
須賀賢匡 ほか

◎江川謙志



第18弾  
『オセロー』 (大ホール)  
2007年10月4日～10月21日  
演出：蛭川幸雄 翻訳：松岡和子  
出演：吉田鋼太郎 蒼井優  
高橋洋 馬淵英理可  
山口馬木也 境 暁彦 ほか

◎高松光司

# 彩の国 シェイクスピア・シリーズの 10年を振り返る

新たなステージを迎えるSSS  
(彩の国シェイクスピア・シリーズ)の今後のために、この10年の軌跡を演劇評論家の扇田昭彦さんに振り返ってもらった。

文=扇田昭彦(演劇評論家)

## 絶えず新しい挑戦を続けた 演出家・蛭川幸雄

1998年に始まった「彩の国シェイクスピア・シリーズ」(SSS)が、2007年で10年目を迎えた。話題作が相次ぎ、英国などへの海外公演も盛んに行われたこの10年の軌跡を振り返ってみよう。

このシリーズは、蛭川幸雄を芸術監督として、シェイクスピアの全戯曲37本を彩の国さいたま芸術劇場で13年がかりで完全上演しようという壮大な企画で、07年未だに18本が上演された。この中には、オックスフォード大学演劇協会(OUDS)の来日公演なども含まれるが、ここではこのシリーズの中心をなす蛭川演出の15本の舞台に的を絞ることにする。

この15本の蛭川演出は次の3種類に分けられる。

①新作の演出=『十二夜』『リチャード三世』



SSS第3弾『リチャード三世』(1999年 大ホール)

『ペリクリーズ』『タイタス・アンドロニカス』『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『コリオレイナス』『恋の骨折り損』

②過去に手がけた作品の新演出=『ロミオとジュリエット』『リア王』『マクベス』『ハムレット』『オセロー』

③再演作品=『夏の夜の夢』『テンペスト』  
この分類から分かるのは、新作の演出が過半数の8本を占めること、過去に演出して評判を呼んだ作品でもあえて新しい演出で再挑戦する作品が5本もあること、そして再演が2本だけだということだ。ここからも、絶えず新しいものに挑戦し、繰り返しを避けようとする蛭川の熱い意気込みが伝わってくる。

## 忘れがたい、 特筆すべき舞台の数々

そこで①と②の中から、私にとって特に印象に残る舞台をいくつかピックアップしてみよう。

例えば、99年初演の『リチャード三世』は鮮烈な開幕シーンが忘れられない。舞台の奥から一頭の馬が駆けてきて、どうと倒れる。すると、舞台上から戦場を象徴する馬や猪の死体、赤と白の薔薇の束が次々に落下してきて、舞台前面を埋め尽くしてしまう。観客の目を釘付けにする、いかにも蛭川演出らしい躍動感と視覚性に富む導入部だった。悪漢リチャード三世を演じる市村正親の、愛嬌と冷酷さが表裏一体となった演技も濃い魅力にあふれていた。

英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)と共同制作した『リア王』(99年)では、和風の衣裳を着て水準の高い演



SSS第13弾『タイタス・アンドロニカス』(2004年 大ホール)

技を見せる、名優ナイジェル・ホーソンをはじめとする英国の俳優たちが印象的だった。道化役で出演した真田広之のしなやかでクールな演技も光った。道化という存在の異質性とただ1人の日本人俳優であることがうまくマッチした役柄設定だった。

03年初演の『ペリクリーズ』は、これを現代の難民たちが語り、演じる一族再会の物語へと再構成した蛭川演出の解釈と趣向が斬新である。「戦乱」「難民」という、原作にない現代的な外枠を導入した知的な演出だった。イラク戦争の開戦が目前に迫る時点で上演されたこの舞台は、リアルな臨場感で観客の心をとらえた。内野聖陽、田中裕子、白石加代子、市村正親らの演技陣にも精彩があった。英国公演でも高い評価を得た舞台である。

04年初演の『タイタス・アンドロニカス』も忘れられない。復讐の連鎖が続くこの流血劇は、戦禍とテロが絶えない現代

の世界と確実に共振した。吉田鋼太郎の沸騰するエネルギー、麻実れいの妖艶な演技も見事だった。06年には、この舞台はRSCが英国で開催した世界シェイクスピア・フェスティバルに参加した。

「悲劇」に定評のある蛭川がここ数年、男優だけで演じられる「オールメー・プロダクション」の手法で、喜劇『お気に召すまま』(04年)、『間違いの喜劇』(05年)、『恋の骨折り損』(07年)を次々に演出して成果を上げていることも特筆に値する。

これは女優が存在しなかったシェイクスピア在世当時のエリザベス朝演劇に回

帰する方向性を持つと同時に、若い美形の男優たちが女形になることで華やかな芸能性が輝く作品群でもある。小栗旬、成宮寛貴らが人気を集めたこの喜劇シリーズは、蛭川演出にとっては新しい領

分の開拓にもつながった。今でも喜劇が得意分野とは言えない蛭川幸雄だが、魅力ある男優たちとの共同作業によって、彼は喜劇の高いハードルをうまく越えつつあるように思われる。

速報!!

2008年第19弾『リア王』に続き  
この秋、喜劇『から騒ぎ』を  
オールメー・シリーズ第4弾で

彩の国シェイクスピア・シリーズの第20弾は『から騒ぎ』。この作品はシェイクスピアの喜劇のなかでも、とりわけ祝祭性に富み、傑作との呼び声も高い。大好評のオールメー・シリーズでの上演。

## Play Schedule 2008.3 - 2008.8

2008年も演出家・蛭川幸雄は疾走し続ける。第20弾に突入するSSSの意欲的な公演、昨年話題をさらった「さいたまゴールド・シアター」に加え、いよいよ「ガラスの仮面」プロジェクトの本格的始動に目が離せない。

3  
MARCH

### さいたまゴールド・シアター “Pro-cess 3”



『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』の興奮再び!

次回、ゴールド・シアターの稽古場公演は、清水邦夫作『想い出の日本一万年』に決定。この作品は1970年、清水×蛭川コンビで『鴉よ〜』に先駆けて現代人劇場によって上演された、蛭川にとっても“想い出”深い作品だ。2006年12月の『鴉よ〜』で熱い舞台を繰り広げたゴールド・シアターが蛭川とともに再び清水作品に挑む。

●●●● PLAY ●●●●

さいたまゴールド・シアター “Pro-cess 3”  
想い出の日本一万年

【日時】3月27日(木) 開演 19:00、28日(金) 開演 19:00  
29日(土) 開演 13:00 / 18:00、30日(日) 開演 13:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場  
【作】清水邦夫 【演出】蛭川幸雄 【出演】さいたまゴールド・シアター  
【チケット(税込)】全席自由 1,500円  
【発売日】一般:2月9日(土) メンバース:2月2日(土)  
速報! ゴールド・シアター第2回公演が6月に予定。演目は後日発表。

8  
AUGUST

### ガラスの仮面



『ガラスの仮面』プロジェクト始動!!

シェイクスピア・シリーズ、ゴールド・シアターと並ぶ、蛭川幸雄演出の新企画ファミリー向け音楽劇『ガラスの仮面』を上演する。原作は演劇漫画の傑作として、国民的な人気を誇り、過去にテレビドラマや舞台劇にもなっている。主役の少女二人はオーディションで選ぶ。全国や海外からも含めて2,300人以上の応募があり、書類審査・面談を経て200人が蛭川幸雄の待つ予選へと進むことになった。今月末の本選を経て栄冠を手にするのは誰なのか?

●●●● PLAY ●●●●

音楽劇  
ガラスの仮面

【日時】8月  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【原作】美内すずえ  
【脚本】青木薫  
【演出】蛭川幸雄



公開対談シリーズ第11回  
NINAGAWA 千の目

蜷川幸雄たっの希望で実現した、作家松井今朝子さんの今回の対談。話題は小説執筆の秘密から歌舞伎界への提言にまで及び、それを聞く蜷川幸雄の真摯な姿が強く印象に残った。

(財)埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

# 蜷川幸雄×松井今朝子

## 歌舞伎の世界から小説の世界へ

**蜷川 (以下N)** 本日のゲストは直木賞作家の松井今朝子さんです。昔「仲蔵狂乱」という小説を読ませていただき、それ以来の松井さんのファンで、今日はぜひと思ひまして来ていただきました(拍手)。こういう公開対談は初めてですか。

**松井 (以下M)** 初めてです。

**N** 緊張しますよね。

**M** ええ、とても(深呼吸)。

**N** 小説の「仲蔵狂乱」を一番初めに読ませていただきましたが、あれを調べるのはものすごく大変なことだったのではないかと思います。早稲田大学の演劇学科時代から、そういう歌舞伎俳優や江戸時代の歌舞伎の周辺の問題というのは、興味があって勉強されていたのですか。

**M** もともと早稲田ではそちらの方を勉強していました。浄瑠璃や歌舞伎の研究をずっとやっていました。ですからどちらかとい

うと活字の本よりも、昔の写本や版本を読んでいる時間のほうが長かったかなと思うぐらいです。作家になるつもりはほとんどなかったと言ったら怒られてしまいますが、社会人になって最初の勤め先である松竹では歌舞伎の台本作りをしたり、武智鉄二先生について歌舞伎の演出を勉強させて戴いたりして、女性ではまだ珍しかったのですが、歌舞伎の裏方として仕事をしてました。小説を書き出したのは40代の半ばですから、本当にこの10年ですね。

**N** 松井さんは新しい歌舞伎あるいはお芝居の戯曲をお書きになるつもりはないのでしょうか。

**M** 芝居を書くというのはものすごく体力が要りますよね。ある種尋常でない神経も使うし。特に歌舞伎の場合は、現場で作っていくという感じもあるし。それに芝居の場合は役者や他のスタッフが大勢いて、自分が作り上げた世界について自分で責任を持っていない部分が出てくる。その点、小説は下手でも全部私の責任ですと潔く言い切れますので、やっぱり有り難いですね(笑)。

## 物語の手段を使って歌舞伎のことを世の中の人にわからせることはできないだろうかと思って、小説を書き出した(松井今朝子)

**N** 例えば直木賞になった『吉原手引草』で、御自分で葛城は女優だったら誰という具体的な映像のような顔は浮かんでいるものですか。

**M** 葛城に関してはわざと浮かべなかったですね。映画でいうと彼女に後ろ向きでセリフを言わせたり、あるいは裾模様だけが見えてるみたいな、私だったらそういう映画も面白いんじゃないかと思ったりして。

**N** それはわからなくはないな。やはり顔は気にしている。本を読むとわかりますが、いろいろな人の証言やエピソードのつかまえ方で人物像が鮮明になっていく、あるいはわからなくなるというようにこの小説はなっているんです。ぜひこの葛城のことも、その後ろ姿なのか、裾模様なのか、顔が浮かぶのかと、お読みになると非常に楽しいと思います。

**M** 芝居というのは、観客と同じ空間にいて、2時間なら2時間のことを共有するわけですが、小説は読み手の状況もバラバラだし、読者の想像に委ねられている範囲が非常に大きい。私は小説を「究極のインタラクティブな表現」と言っていますが、そういう意味では芝居とはまた違った面白さがあると思うんですね。

**N** わがままな人にはいいですね(笑)。

**M** はい、本当にそうですね(笑)。

### 歌舞伎という特殊な世界と蜷川さん

**N** 歌舞伎の仕事は僕は1本しかやっていませんが、あの中で仕事をし続けるというのは本当に大変ですね。イギリスのほうが楽かもしれない。異文化でした。

**M** その話をぜひ聞きたいのですが(笑)。テレビで蜷川さんをずっと追っかけている番組を拝見した時に、蜷川さんの顔がだんだん怖くなっていくので、本当に大変だったんだろうなと思いました。私は歌舞伎の世界のこともある程度想像がつくものですから、ちょっと心配してました。

**N** この間の再演の「十二夜」は稽古が3日ぐらいでした。再演といっても、ちょっと日数がたっていますから思い出したりするのが大変なはずですが、ちゃんと開けますね。

**M** 大体歌舞伎の稽古は3日。それで初日が開くんだろうか?と思いますが、けっこう開いてしまってますね。「十二夜」の初演は、何日ぐらい稽古なさいましたか?

**N** 10日間弱ですね。1週間ぐらいですかね。

**M** それがたぶんぎりぎりいっぱいですね。それ以上長く稽古はほとんど出来ません。

**N** それで驚いたのは、歌舞伎座のロビーでの稽古。信じられないでしょう? ロビーに畳を敷いて、そこで稽古をしたりします。言ってみれば玄閣、要するにロビーですだからね。「ええ、こんなこ

とがあるのか」と。

**M** 松竹の場合、もちろん本社にも稽古場がありますが、劇場のロビーでもよくやりますよ。きっと昔の名残なんだろうね。江戸時代の歌舞伎は基本的に舞台稽古はなかったんです。今だとこれは不思議に思われるかもしれませんが。

**N** それでも二度と歌舞伎はやらないと言いつつ、他の芝居の稽古をやっていると、尾上菊之助君が来て稽古場の隅でじーっと稽古が終わるのを待っている。それに負けて、「わかった、わかった。やるよ、十二夜の再演」と。二度とやらないだろうなと思いつつ帰って来たのに、菊之助君に負けましたね(笑)。

歌舞伎の話では、例えば型の伝承とかをどうお考えですか? 誰々の演出はこうだったとか、もちろんテープも映像もないわけですから。例えば僕の「近松心中物語」ですが、ものすごい回数をやっているうちに初演からどんどんどんどん変形する訳です。そうすると今伝承されているものは、伝承の結果、型を引き継いでいるといながら、実は相当変形しているのではないかという気がします。そのことについてはどうでしょうか。

**M** もちろん変形していかざるを得ないのが演劇というものの宿命で、私は歌舞伎といえど、あんまり型の演技ということを強調すべきではないと思います。ただ、なぜ型を重んじるかというと、昔のことや当時の人間の感覚というのは、現代の私たちにわからないところもいっぱいあるわけで、逆に昔の型を見て、ああ、昔はこういうことがあったのかと、気づかされたりもするわけなんです。

シェイクスピアだと各時代のいろんな種類の台本を綺麗に整理して、これが定本だということと戯曲の古典化はあっても、演出はどんどん変えていくわけですが、歌舞伎はむしろ台本をどんどん変えていって、演出を伝承するという傾向が強いんです。ただ、それだけに、役者がきちんとした勉強もせずに勝手にどんどん変えていくと、古典演劇としての存在意味が全くなってしまふ。そういう意味で近ごろの役者を見ると、今後は非常に危険ななと思っています。

**N** まだまだお話しをお聞きしたいところなのに、時間が来てしまいました。本当によくいらしてくれて、僕は本当に感謝しています。



profile: 松井今朝子(まついけいこ)  
1953年京都生まれ。早稲田大学大学院を経て株式会社に入社。歌舞伎の企画・制作に携わる。同社退職後は歌舞伎の調査・演出・評論を手がける一方、歌舞伎入門書の監修にも積極的に関与。97年、初の小説「東洲しゃらこ」を発表。2007年、「吉原手引草」で第137回直木賞受賞。主な著書に明治を舞台にした「果ての花火 銀座開化おもかげ草紙」、挿物シリーズ「三世相 並木節子探偵録」等がある。

talk・talk・talk 第9回

## インバル・ピント・カンパニー 『Hydra ヒュドラ』



## 見たことのない光を探して

ゲスト：インバル・ピント&amp;アヴシャロム・ポラック ナビゲーター：佐藤まいみ (財団法人埼玉県芸術文化振興財団プロデューサー)

シュールで幻想的な作風で知られるインバル・ピントとアヴシャロム・ポラックが、彩の国さいたま芸術劇場との共同製作で挑んだ新作『Hydra ヒュドラ』。ワールドブルミエの興奮に包まれた終演後の舞台上に登場したピントとポラック、2人が創り出すファンタジックで謎めいた世界の秘密に迫った。

佐藤 『ヒュドラ』の世界初演、皆さまいかがでしたでしょうか。『ヒュドラ』というタイトル自体が既にミステリアスですね。ポラック タイトルというのはいつも決めるのが大変で、なかなか決まりません。新しいものを創る時には何も無いところから始めたいですし、(タイトルに)しがみついてもいけないですから。今回は〈背骨〉のない人、〈背骨〉を探す人という作品のイメージから、原始的な背骨のない生き物であるヒュドラを思いつきました。本当に偶然、ほとんどハプニングのように思いついたんですけど。おもしろい発音だし、いろいろな意味をもつ言葉だし。そうしたら、創作が進行していった時に、今までに出し合っ

てきた様々なイメージとのつながりが見えてきて、更にアイデアがそこからどんどん湧き出てきて、もはやただの怪物の名前ではなくなくなってしまっていたのです。そうしてタイトルと作品とが一体になっていきました。この作品を観られた観客の皆さんにも、「[ヒュドラ]という言葉から」また新たなイメージのつながりを見つけていただけたらいいですね。佐藤 今回は森山開次さん、大植真太郎さんという日本人ダンサーに特別出演していただきました。これまでご自身のカンパニーに客演ダンサーを迎えたことはないと聞いていたのですが、インバルさん、いかがでしたか。

ピント 創作のプロセスではいつも、新しい〈土地〉を見つけたい、新しい〈場所〉を見つけたいと思っています。真太郎と開次はまさにそれをもたらしてくれました。彼等が入ったことで、動きのリサーチのうえでは若干いつもとやり方が違ったかもしれませんが。とっても美しい身体による対話が生まれたのです。そこにはさまざまなアイデア、動きの言語、ダンス・スタイルの交換がありました。私たちはオープンな状態で彼等が運んで来てくれたものを受け入れようとしたし、彼等にも私たちから何かを受け取ってもらう。それらが素晴らしい溶け合の中で、新しいスタイルや動きが生まれてきたのです。新しい〈土地〉、新しい〈場所〉に行き着いたように感じます。作品を創る時はいつでも、前と同じ場所で足踏みをしないように、同じような世界に留まらないようにと心に決めて取り組みます。新たなドアを開けて踏み出すというのは、まるで暗室に足を踏み入れるようなものです。そこに今まで見たことのない光を探すのです。

観客 砂が袋から落ちてきて傘に当たるのが雨のように感じられて印象的でした。最後に天井から降ってきたタンポポの綿毛のようなものも幻想的。これらが生まれたきっかけやそれに込めた思いなどをぜひ聞かせてください。

ポラック 僕たちは、人に感じてもらおうということが、人に考えさせることよりも更に大きな仕事だと思っています。この舞台の中には動きもあるし、音楽もあるし、視覚的にもいろいろな要素を使っていますが、それは皆さんの情感や気持ちを広げてもらうためのツールだと思っています。この砂袋に関しても、ただの砂袋ではなく、例えば刻々と時を刻む砂時計にもなるかもしれない。砂袋は、もしかしただですが、人がぶら下がっているように見えるかもしれない。モノが人に見えたり、人がモノに見えたり。いろいろな二重性が今回の舞台には含まれています。砂が落ちる音もそうですし、それから黒い細い糸のように落ちる光景も、それが人生を刻んで、だんだんと命を刻んで…というふうにも考えられるし、新しい命を生みだしているのかもしれない。すごくシンプルなものや行為から、いろいろなことを考えたり感じたりしてもらうことが、僕たちの目的でもあるのです。



2007年11月大ホール公演「Hydra ヒュドラ」より

【振付・演出・衣裳デザイン・舞台美術デザイン】インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック  
【出演】インバル・ピント・カンパニー (10名) 大植真太郎 森山開次  
【日時】2007年11月9日(金)~11日(日) 全3公演

今後のツアー予定:2008年4月 Steps インターナショナル・ダンス・フェスティバル(スイス)  
5月 イスラエル・フェスティバル2008



profile: Inbal Pinto &amp; Avshalom Pollak (インバル・ピント &amp; アヴシャロム・ポラック)

インバル・ピントとアヴシャロム・ポラックは、イスラエルを代表するコンテンポラリーダンスの振付家・演出家。インバル・ピント・カンパニーを率い、「オイスター」(1999年)、「フービーズ」(2002年)等、革新的で想像力豊かな傑作を発表し続け、世界でもトップクラスの人気を集めている。一昨年の来日公演は、NHK教育「芸術劇場」でも放送され反響を呼んだ。インバル・ピントは、クラシック・デザインを学んだ後、パトシェバ舞踊団に参加し、ダンサー・振付家として活躍。92年にアヴシャロム・ポラックと出会いカンパニーを結成。Wrapped(98年)で、ベシツ賞を受賞。カンパニーとしての活動以外にも、オペラや演劇の振付も行っている。アヴシャロム・ポラックは、俳優として数多くの映画やテレビに出演するとともに、シエイクスピアやチェーホフの舞台にも出演。インバル・ピントとカンパニーを結成して以来、全ての作品を共同で創作している。07年11月彩の国さいたま芸術劇場との国際共同製作で「Hydra ヒュドラ」を発表、大きな話題を集めた。

トーク会場撮影:宮川舞子 舞台撮影:Arnold Groeschel

さいたままでダンスにひたる3日間 『死の天使』 + [videodance2008]

ヤン・ファール

# 死の天使

4面のスクリーンから語りかけるフォーサイズに、イヴァナ・ヨゼクのアニマルなライブダンスが応酬する。360度を埋め尽くす観客と四方から迫るフォーサイズとに、独りきりで対峙するイヴァナの心境は？ ヤン・ファール演出「わたしは血」でも特異な個性を見せてくれたイヴァナの、新たな挑戦に期待。




© Wonge Bergmann

## フォーサイズ vs イヴァナ

イヴァナ・ヨゼク「カンパニーの他のダンサー達と一緒にパフォーマンスをする時は、開かれた空間という舞台がほとんどだったから、最初はその狭さ、観客との距離の近さに驚いたわ。それも360度。どこにも死角なしって感じなんですの(笑)」

確かに。まるで教室のような部屋に入ると、その真ん中にイヴァナ・ヨゼクがいて、いつの間にか『死の天使』が始まっている。我々観客はイヴァナとのあまりの近さに、時には見えてはいけないものを覗き見しているような感覚に陥るのだ。

「ヤン(ファール)と1対1で作品を創り上げるだけでもエキサイティングなのに、今回はヤンと友人のウィリアム・フォーサイズが映像で登場してくれる。しかも映し出されるスクリーンが1ヶ所

取材・文=佐藤友紀(ライター)

じゃないから、それまで私の動きをジッと見ていた観客たちがあれれ？ と周りを見回す姿がおかしくて(笑)。フォーサイズも、大真面目な表情の中のユーモアが絶品で。変則的な形だけど、共演できて光栄だったわ」

観客があまりにも近くにいて、逆にそこに誰もいないが如く演じるパフォーマンスも多い中、イヴァナは「1人1人とのコミュニケーションをパフォーマンスに反映させるような感じで動いている」という。

「そういう意味では、毎回表現するものが違うし、観客とのキャッチボールの仕方も違う。『死の天使』の解釈まで微妙に違う。まるで生き物のような演目なのよ」

### PROFILE



**ヤン・ファール** Jan Fabre  
1958年ベルギー生まれ、パフォーマンス・アーティスト、演劇やオペラの演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を生みだし続ける。現代における最も革新的かつ多才なアーティストの一人。代表作に『劇的狂気』(84年)、『タンホイザー』(2004年)など。07年、ザルツブルク音楽祭に招聘され、『Requiem für eine Metamorphose』を発表。昨年度、彩の国さいたま芸術劇場で上演された『主役の男が女である時』、『わたしは血』は、大きな話題を集めた。



**イヴァナ・ヨゼク** Ivana Jozic  
1975年クロアチアのザグレブ生まれ。ロンドン・コンテンポラリー・ダンス・スクールにてダンスを学ぶ。卒業後ロンドン、スロヴェニア、スイスなどで活躍。2002年にヤン・ファールと活動を始め、『わたしは血』、『The Crying Body』などに出演。03年、アヴィニョン・フェスティバルの委嘱により、ヤン・ファールが彼女のためのソロ作品『死の天使』を制作。

●●●● DANCE ●●●●

ヤン・ファール 『死の天使』(ソロ・ダンス)

[日時] 2月8日(金) 開演 20:00  
9日(土) 開演 14:00 / 18:00  
10日(日) 開演 14:00

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演目] 『死の天使』(上演時間:50分) 【構成・演出・テキスト】ヤン・ファール

[振付] ヤン・ファール イヴァナ・ヨゼク

[出演] イヴァナ・ヨゼク ウィリアム・フォーサイズ(映像出演)

[チケット(税込)] 好評発売中 全席自由 一般:4,000円 メンパース:3,600円

\*大ホール舞台上に置かれたクッションにお座りいただきます。(150名限定)。脚の不自由なお客様は、当日、係員にお申し出ください。

彩の国さいたま芸術劇場

# videodance2008 シリーズ2

舞台上では見えないダンサーやクリエイターの表情に触れ、映像ならではのダンス、身体表現の魅力に出会える3日間。



program

2008.2.8 fri 18:00-19:30

■ Coffee with Pina 『コーヒー・ウィズ・ピナ』(2006年 / 51分)  
振付:ピナ・バウシュ 出演:ピナ・バウシュ ヴッパタル舞踊団  
監督:リー・ヤノール  
ピナとダンサーたちのやり取りやハーサルや、舞台を見るピナに密着したドキュメンタリー作品。これまで見せてこなかったピナの素顔がうかがえる。

■ Véronique Doisneau 『ヴェロニク・ドワノー』(2005年 / 33分)  
演出:ジェローム・ベル  
出演:ヴェロニク・ドワノー(パリ・オペラ座バレエ団) 他  
監督:ジェローム・ベル ビエール・ドゥパイ

オペラ座のダンサーを引連する48才のヴェロニク・ドワノーがオペラ座の広い舞台に一人立ち、それまで彼女が辿ってきた自身のダンサー人生を等身大で語りながら踊る。気鋭の振付家ジェローム・ベルが、妖艶物語とはひと味違ったバレリーナ像を描く。

2.9 sat 15:30-17:30

■ Body, body on the wall...  
ボディ・ボディ・オン・ザ・ウォール』(1997年 / 7分)  
振付・監督:ヤン・ファール ウィム・ヴァンデケイユス  
出演:ウィム・ヴァンデケイユス  
色彩の洪水のなかでひたすら乱舞するソロ・ダンス。ヤン・ファールはヴァンデケイユスの体をおして、見せ物として曝され、利用される身体を露わにする。

■ Here After 『ヒア・アフター』(2007年 / 64分)  
振付・監督:ウィム・ヴァンデケイユス 出演:ウィム・ヴァンデケイユス 他  
自然とそこにある身体の変容のなかで、『暴力とは、苦しみとは、罪悪感とは何か』を問いかける。舞台作品『PUUR』のテーマを引き継いだ映像作品。

■ The Moebius Strip 『メビウス・ストリップ』(2002年 / 26分)  
振付:ジル・ジョン 監督:ヴィンセント・フラス  
身体をモデルとして提示しつつ、同時に皮膚の呼吸、筋などの微細な動きを辿る。カメラワークによる効果が存分に発揮された映像作品。

2.10 sun 15:30-17:30

■ Tricodex 『トリコデックス』(2005年 / 51分)  
振付:フィリップ・ドックワレ 出演:国立リヨンオペラ座バレエ団  
リヨンオペラ座バレエが上演したタイトル作品の舞台映像。フィリップ・ドックワレ・ワルドのエッセンスの集合体ともいえる。ファンタジックなダンス作品。

■ Blanche-Neige Episode #1 『白雪姫 エピソード #1』(2005年 / 14分)  
監督:カトリーヌ・ベイ  
フランスの気象造形アーティスト、カトリーヌ・ベイが監督した映像パフォーマンス作品。21世紀の白雪姫たちがカラシニコフを購入する。

■ Véronique Doisneau 『ヴェロニク・ドワノー』(2005年 / 33分)  
演出:ジェローム・ベル  
出演:ヴェロニク・ドワノー(パリ・オペラ座バレエ団) 他  
監督:ジェローム・ベル ビエール・ドゥパイ

●●●● DANCE ●●●●

videodance 2008 シリーズ2

[日時] 2月8日(金) 18:00 ~ 19:30  
9日(土) 15:30 ~ 17:30  
10日(日) 15:30 ~ 17:30

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
[チケット(税込)] 好評発売中 全席自由 1日券 前売:500円 / 当日:700円

## 未知の国への旅

文=佐々木涼子(舞踊評論家)

ビデオダンス、つまり過去のダンスをビデオで見るといふ企画には、実に大きな意味がある。ダンスは現前芸術と瞬間の芸術などと言われるが、なべて創造は過去の蓄積の上に積み上げるもの。乗り越えるためにも、過去を知ることは現在の意味を深める。

それだけではなく、ビデオは、ダンスという総合芸術に更なる次元を付け加える。ダンスをありのままに撮りつつも、尚かつそこにカメラという創造的なフィルターがかかるからだ。

昨年の第1回の『videodance』は、私にとつて予想をはるかに超える素晴らしい経験だった。ピナ・バウシュとかヤン・ファールといったよく知っている振付家については、正面だけ知っていた建築の内部空間や奥行きを感じたような感動、それまで知らなかったシディ・ラルビ・シェルカウィは、それこそ世界の果ての未知の国を旅したような衝撃だった。

今年のお薦めは、パリ・オペラ座バレエで定年を迎えるダンサーを撮った『ヴェロニク・ドワノー』。私も泣き笑って見たが、ダンスという営みについて深い人間的な側面を感じることに請け合い。『コーヒー・ウィズ・ピナ』は演出家というより一人の女性としてのピナを見せる。窓から雨を眺める目が何とも心に沁みる。意表を突く『白雪姫』は、現在の国際紛争と童話の真の意味について考えさせる、映像ならではの作品だ。

文学好きが古典を読むように、将来、ビデオでダンスを見る日がきっと来るにちがいない。

# Dance Performance 2008 - 2009

## コンテンポラリー・ダンス最前線

内外で活躍目覚ましい(今)のダンスを数多く紹介してきた彩の国さいたま芸術劇場。  
2008年のプログラムにも刺激的な演目が並ぶ。国内からは、日本ダンス界をリードしてきた  
勅使川原三郎が10年振りに再挑戦する『Here to Here』、さいたまではお馴染みになったパワー全開コンドルズ。  
一方、海外からは4年ぶりの来日となるラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの新作『Amjad アムジャッド』、  
ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニーは代表作『ロミオとジュリエット』でさいたま初登場。  
最新作から名作の再演まで、すべてが見所のラインナップ!

### 5 MAY コンドルズ 『埼玉スペシャル公演 2008』

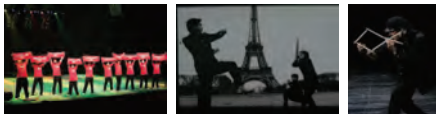
#### 「奇跡」を呼ぶ男たち、再来!

恒例となった5月のコンドルズ埼玉公演。  
初夏の季節に似合うクールで熱いダンスを見逃すな!  
文 = 勝山康晴(コンドルズ プロデューサー)

人生において偶然はあります。  
たまたまですが、僕は埼玉出身及び在住の子と付き合ったことがありません。なので正直、埼玉のことはよく知らなかったのです。無論、埼玉関係の友達はいます。が、やはり恋人として付き合うのとは、関心の度合いも違うでしょう。  
ところがです。おかげさまで、ここ二年連続で彩の国さいたま芸術劇場でコンドルズ公演をやらせてもらいました。するとなんということでしょう! 僕が中学の時に付き合っていた子が見に来ていたのです! 劇場からのDMを見て、僕の名前を見つけて、そして現在は埼玉在住とのこと。僕は静岡出身で、その子も静岡出身。そんな二人が埼玉で十年以上ぶりに再会したのです。もはやまるで演歌ショーの前口上みたいな勢いです。

それから二人はちょくちょく会うようになって、時間も出身地も越えた愛を育み、秋には入籍です、などという話であれば美談ですが、そんなことはないですね、はい。が、埼玉で再会した、という偶然は、僕の中の埼玉を感慨深い土地へと変えてゆきました。そう、だから皆様、彩の国で既にコンドルズをご覧になったことがある方も、まだ見たこともなく、ましてや、この原稿でコンドルズを知ったばかりの方も、ぜひともコンドルズ埼玉公演に遊びに来てください。私事かもしれませんが、彩の国さいたま芸術劇場には偶然を引き起こす何かがある気がします。そしてそれは時には「奇跡」とも呼びます。僕とその子の再会は偶然であって奇跡ではないかもしれませんが、それっきりです。

でも、僕たちコンドルズはステージ上から皆様へ、少なくともひとつの「奇跡」をお届けしましょう。約束します。風清らかな五月、皆様の御来場を心からお待ちしております。



2006年5月大ホール公演  
コンドルズ 埼玉スペシャル公演2006  
劇場への来日 SHIRUPLEより © HARU

2007年5月大ホール公演  
コンドルズ 埼玉スペシャル公演2007  
【左側】にちつり007 トゥモロー・パーティーより © Amjad Groeschel

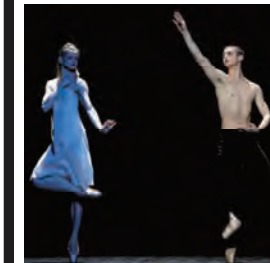
**コンドルズとは**  
男性のみ、舞台衣装は学ランのダンスカンパニー、NHK教育「サラリーマンneo」の「サラリーマン体操」や「からだであそぼ」の「こんどうさんのたいそう」でお茶の間にも大人気の近藤良平が主宰。メンバー一人一人の個性的なキャラクターを存分に生かし、ダンス、映像、アニメ、生演奏、人形劇、演劇をダイナミックに横断する舞台で多くのコアなファンを獲得。国内はもとより海外でも好評を得ている。手作り感たっぷりのアニメや映像や人形劇、アコースティックな弾き語りも、コンドルズの舞台には欠かせないスタイルをキープ。メンバーは歌、音楽大好き、ロック大好き。『THE CONDORS!』としてメジャーデビューも果たす実力。しかし何と云っても圧倒的なのはロック魂に貫かれたスリリングなダンス、パワー溢れる舞台に今年も期待!  
<http://www.condors.jp>

●●●● DANCE ●●●●

### コンドルズ 埼玉スペシャル公演2008

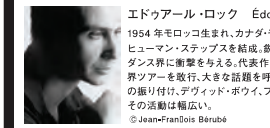
【日時】5月17日(土) 開演 14:00 / 19:00、18日(日) 開演 16:00  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【構成・映像・振付】近藤良平 【出演】青田潤一 石淵聡 オクダサトシ 勝山康晴 藤倉道彦 古賀剛 小林剛作 横川利博 藤田善宏 山本光二郎 近藤良平(以上予定)  
【チケット(税込)】一般:前売4,000円 / 当日4,500円  
メンバーズ:前売3,600円 / 当日4,050円 学生席:2,000円  
【発売日】一般:2月9日(土) メンバーズ:2月2日(土)

### 7 JULY ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス 『Amjad アムジャッド』



硬質の張りつめた時空を駆け抜ける9人のダンサーたち。エドゥアル・ロックの新作は古典バレエ『白鳥の湖』、『眠りの森の美女』を過激に解体。ロック固有のマニエリスティックなスタイルでバレエの新たな地平を切り拓く。

© Eduard Lock



エドゥアル・ロック Édouard Lock  
1954年モロッコ生まれ、カナダ・モントリオールで育つ、80年、ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスを結成、鋭い感覚と爆發的エネルギーで世界のダンス界に衝撃を与える。代表作『アンファン』、『2』、『アメリカ』では世界ツアーを敢行、大きな話題を呼んだ。パリオラ座バレエ、NDT等への振り付け、デヴィッド・ボウイ、フランク・ザッパのコンサートの演出等、その活動は幅広い。  
© Jean-François Blarasin

【日時】7月4日(金)、5日(土)、6日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『Amjad アムジャッド』(2007年初演) 【振付】エドゥアル・ロック  
【衣装】ギヤヴィン・フライヤーズ デヴィッド・ラング フレイク・ハルグリーヴス  
【出演】ラ・ラ・ラ・ヒューマンステップス ダンサー9名 【チケット発売】4月予定

### 10 OCTOBER 『日本音ばなしのダンス』

2006年、2007年に続く「日本音ばなしのダンス」シリーズ第三弾。お母さんと子どもたちが一緒に楽しめる、からだで感じる音ばなし。演目は、いまはまだ秘蔵。お楽しみに。



【日時】10月25日(土)、26日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
【振付】近藤良平 森下真樹  
【チケット発売】7月予定

### 9 SEPTEMBER 勅使川原三郎 『Here to Here』

真っ白な布の壁で三方と天井を囲む舞台装置。一切の装飾が排除された空間の中で展開する究極のダンス。勅使川原三郎1990年代の代表作のひとつ。



勅使川原三郎 Saburo Teshigahara  
クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年に宮田佳と共にKARASを設立以降、常に世界のダンスシーンで先駆的な活動が続ける。舞台美術・衣装・照明等も自ら手がけ、作品の洗練した美と独自のダンス哲学が世界各国で高い評価と支持を得ている。パリオラ座など著名バレエ団への振付他、映像、執筆等多方面で活躍中。ダンス教育にも力を注ぐ。現・立教大学教授。  
© Bernt Wandelius

【日時】9月20日(土)、21日(日)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『Here to Here』(1995年初演)  
【振付】美術・照明・衣装 勅使川原三郎 【出演】勅使川原三郎 宮田佳 佐東利穂子  
【チケット発売】5月予定

### 11 NOVEMBER ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』

スペインの情熱と力強さを湛えたナチョ・ドゥアトの『ロミオとジュリエット』。息をのむほどに切なく美しいロミオとジュリエットのデュエットは、舞踊史に残る数々の名版にも勝るとも劣らない。



【日時】11月22日(土)、23日(日)、24日(月・祝)  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
【演目】『ロミオとジュリエット』(1998年初演)  
【振付】ナチョ・ドゥアト 【音効】セルゲイ・コロコフィエフ  
【出演】スペイン国立ダンスカンパニー 【チケット発売】7月予定



interview

MASAAKI SUZUKI

## 2大バッハ作品へ 表現者としての挑戦

### 鈴木雅明／バッハ・コレギウム・ジャパン

取材＝長野隆人（フリーライター）

《マタイ受難曲》をいつ聴いたという定かな記憶がないけれど、有名な曲だから聴いてはいましたよね。自分で初めて演奏したのは1991年です。いずみホールでの1周年で演奏して、あと上野学園メモリアルホールで演奏したんですが、それは僕にとっては感動的でしたね。

ともかくキリストの復活祭の前にやるというのが、この曲の意味から言うと当然一番重要なことです。僕は、マタイは周期的にやるものだという認識が日本でも生まれるようになっていってやってきています。

ただ我々（BCJ）の場合は、もちろん聖書のメッセージを伝えたいという僕自身の信仰的な意味もあるけれど、たとえば教会の礼拝の中で演奏しなきゃいけないと考えているわけではない、日本の場合は演奏会場でやる「べき」だと思ってますね。演奏会場で、演奏会としてやることで、音楽の機能がもっとも完全に現

れ出ているから、そういった面では、全然オリジナルではないのです。バッハはそんなことはしなかった。バッハは明らかに金曜日の礼拝か、あるいはその前の日曜日の礼拝の中でしか演奏していないわけですから。

《マタイ受難曲》の音楽でどういうことを表現したいか。たとえば、すごく劇的な面を強調したいのか、あるいはそのリリックなどところを美しくやりたいのか、あるいはその聖書のメッセージを伝えたいと思うのかという、そういう様々な演奏の「目的」というものによって、演奏は変わってくると思います。

メンデルスゾーンは、1829年に《マタイ》の復活上演をしたことでとても有名なんですが、実際問題演奏したのは、2／3くらいでしかない。実は様々な変更を加えているけれども、それは作品を改ざんすることが目的ではなくて、曲が持っているドラマティックな劇性だとかメッセージを当時の人たちにわかりやすく伝えよ

うとした、という発想だったと思うんです。それと同じことを我々は違うレベルでやっているわけなんです。

3月のこちらでは2度目の演奏になるわけですが、バッハが一番最後の演奏でやったと思われる1742年ぐらいのチェンバロも入れたかたちで演奏したいと思っています。そういう意味では楽器編成上もとても大規模なものになるんですよ。十分響きを満たすパワーを得られるようにしたいと思っているし、《マタイ受難曲》の福音書が持っているメッセージを正しく伝えたい。今回はエヴァンゲリストは合唱を歌わずそれに専念して歌って、各アリアを歌う人たちが、個人的な感情、信仰感情を表現していきます。

バッハの歌詞というのは、いまのドイツ人にとっても実は非常に難解なものなんです、音楽がそれを釈義してくれるというかな、解説してくれるという面が非常に強いです。《マタイ》の音楽を通して聴けばイエス・キリストの言葉をひとつ聴くとしても、どういう雰囲気の中でどういう意味のものなのか、感性を通してわかるということが非常に重要だと思いますね。

### 《ブランデンブルク協奏曲》での新たな試み

6月に演奏する《ブランデンブルク協奏曲》は、またバッハの《マタイ》とは全然違った局面で、宮廷音楽に属するものです。これは大変すばらしいコンチェルト集で、どういう点で素晴らしいかというと6つが6つとも、まったく違う楽器編成になっていて、ちょっと他に例がない編成なんです。

今回の演奏での一番大きな特徴は、弦楽器のほうでヴィオロンチェロ、いわゆるチェロのパートにヴィオロンチェロ・ダ・スパラという肩にかけて横向きに弾く楽器を使ってみようとしていることです。

《ブランデンブルク》では、特に第3番がヴァイオリン3つ、ヴィオラ3つ、チェロ3つ、という編成になっています。いつもこの曲を演奏するときに苦労させられる点で、ヴァイオリン3つに、ヴィオラ3つに対して、チェロが3人集まると、すさまじい音がする。な

にか不自然な編成に見えるわけですよ。そこをヴィオロンチェロ・ダ・スパラでやってみると、全員が横向きに弾く楽器を3・3・3でつつかたことになる。3という楽器は聖なる数字であって象徴的で、それを第3番に使っているわけです。

もうひとつは、第6番。ヴィオラが2つとチェロ1つというかたちで、非常にソリステックな動きをします。ヴィオロンチェロ・ダ・スパラを用いると2つのヴィオラと、音域的には1オクターブ違う同じ構造を持った横向きの楽器を同時にそこで演奏することができ、というわけです。それで演奏した時に、寄り添うようなキャラクターというのが大変効果的ではないかということで、これを試してみたいんです。日本では初めての試みだと思います。

我々は「響き」という観点から、なるべくオリジナルに近いものにしたということがひとつあり、いま残されている資料の中から、ありうるべき姿を現代にもう一度映し出したいという思いがあります。古楽器を使って演奏していると、あたかも当時の再現のように受け取られがちだけど、それより、作品に含まれる様々な情報のいろいろな「層」を現代にどう再現したいか、ということなんです。それは、現代に生きている我々が現代人のためにやるわけですからね。

profile

#### 鈴木雅明（すずき まさあき）

東京藝術大学作曲科卒業、同大学院オルガン科修了。スウェーデン音楽院でチェンバロとオルガンを学ぶ。1990年、バッハ・コレギウム・ジャパンを結成。J.S.バッハの宗教音楽作品を中心に幅広い活動を行っており、海外ツアーやCD録音でも高い評価を得ている。2000年度音楽之友社賞、01年毎日芸術賞受賞、01年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小章受賞、03年、辻一三浦アンナ記念芸術奨励金受賞、東京藝術大学教授。

#### バッハ・コレギウム・ジャパン

世界的なオルガン・チェンバロ奏者で東京藝術大学教授の鈴木雅明が、世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して1990年に結成したオーケストラと合唱団。特にJ.S.バッハの宗教作品を中心とするバロック音楽を理想的に上演・普及させることを主旨として演奏活動を行っており、バッハの教会カンタータ全曲シリーズをはじめとして録音も多数リリースし、国際的に高い評価を得ている。

●●●● MUSIC ●●●● バッハ・コレギウム・ジャパン

#### バッハ《マタイ受難曲》

【日時】3月20日（木・祝） 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】鈴木雅明（指揮） エヴァンゲリスト（テノール）：ヤン・コボウ イェス（バス）：マルクス・フライク  
ソプラノ：ハナ・ブラシコヴァ、藤崎美苗 アルト：ダミアン・ギヨム、上杉清仁 テノールソプラノ・ソバス：  
ドミニク・ヴェルナー バッハ・コレギウム・ジャパン（合唱・管弦楽）

【チケット（税込）】 好評発売中

一般：S席8,000円/A席7,000円/学生A席2,000円 メンバーズ：S席7,200円/A席6,300円

●●●● MUSIC ●●●● バッハ・コレギウム・ジャパン

#### バッハ《ブランデンブルク協奏曲》全曲演奏会

【日時】6月14日（土） 開演 17:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】鈴木雅明（指揮・チェンバロ） バッハ・コレギウム・ジャパン（管弦楽）

【チケット（税込）】

一般：S席6,600円/A席5,000円/学生A席2,000円 メンバーズ：S席5,850円/A席4,500円

【発売日】一般：2月9日（土） メンバーズ：2月3日（日）



### ヴィオロンチェロ・ダ・スパラ 文＝寺神戸 亮

チェロという楽器が生まれたのは1660年ごろ、といわれています。ヴィオローネの小さいものという意味からヴィオロンチェロと名付けられました。そして当初はヴィオロンチェロ・ダ・スパラ、すなわち「肩のヴィオロンチェロ」と呼ばれる、かなり小型の楽器がありました。

バッハゆかりの地ライプツィヒやアイゼナハなどにもこのタイプの非常に小型のチェロが残っており、恐らくバッハが称するところのヴィオラ・ボンポーザではないかといわれてきました。そして最近

の研究で、それはヴィオロンチェロ・ダ・スパラのことを指しているのだろう、ということがわかってきました。肩から紐で吊し、ギターのように横に構えて弓で弾きますが、ヴァイオリンに近いテクニックで演奏されます。

「チェロ」という楽器の定義自体がまだあいまいだったバッハの時代、この楽器が普通に「ヴィオロンチェロ」という名前でもバッハの作品中で演奏されたであろうことは想像に難くありません。

# M Concert Calender 2008 - 2009

今年のラインナップは豪華・多彩。生誕100年記念のメシアン・プロジェクトが耳目を集め、ゲルバー、再来日が待望されていたベライアといった巨匠達のリサイタルにも期待が高まる。また、井上道義指揮のN響が小曾根真をソリストに迎えてファン垂涎のプログラムで登場するなど、聴き逃せない公演満載だ。

## 4 APRIL 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル

諏訪内晶子の音色は、いつでも彼女の真っ直ぐな音楽との対峙を感じさせてくれる。しばらくはオーケストラとの共演での演奏活動が多かった彼女が、満を持して開くリサイタル。文 = 岡部真一郎 (音楽学者・評論家 明治学院大学教授)



新聞・雑誌やテレビ・ラジオの仕事をしていて、あるいはまた、コンサートの企画などにも携わっている、演奏家や作曲家とオフ・ステージで話をするのは、やっぱりちょっと特別な感じがする。アーティストの「素」の部分が見え隠れするから。終演後、素晴らしい演奏の余韻に浸りながら乾杯して、あれやこれやを親しく話すこともあれば、取材のインタビューということも多いが、加えて、街角で、あるいは買物の中などに声を掛けられて、思わず立ち話、ということもしばしばだ。

そんななか、どうやら、諏訪内とは何か縁があるような気がする。空港やら、ヨーロッパに出向くフライトで、思いがけず、彼女に会うことが何回もあった。その度に、機内でも、ラウンジでも、ステージ上の裏としたりはそのままに、真摯に、そして何の街いもなく、音楽についてはほとんど、いろいろな話をする諏訪内は、その音楽と同様、いつでも極めて魅力的だ。

現在、パリを拠点としている諏訪内を日本で聴く機会は、思いのほか多い。初夏には、ベートーヴェンのコンチェルトをヤルヴィの指揮で聴いたし、昨秋には、彼女はパリ管弦楽団の来日公演のコンサートにソリストとして登場し、エッセンバハの指揮により実事なチャイコフスキーの協奏曲を聴かせてくれたばかりだ。

一方、スイスの夏の終わりのフェスティヴァル、ルツェルン音楽祭では、作曲家としてばかりではなく、指揮者としても現代音楽界の寵児の一人、ペーター・エトヴェシュの委嘱新作のソリストをピエール・ブーレーズの指揮で務めて、諏訪内は新境地を開いた。この新作は、作曲家自身の指揮で、近々、日本初演が行われる予定と聞く。とは言うものの、そんな諏訪内晶子の音楽をじっくりとリサイタルという形で聴くことは、やっぱりとても特別なことだ。彼女の影の国での満を持しての演奏会は、この春の何よりの楽しみ同様、いつでも極めて魅力的だ。(文中敬称略)



© Universal Music Photo Shintaro Shiratori

**諏訪内晶子** (すわない あきこ)  
1990年、最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。91年からニューヨークへ留学し、日本で演奏活動を休止。95年以降、国内外でオーケストラとの共演やリサイタルで活躍。エヴィアン、マルボロなど国際的な音楽祭にも多く出演している。フィリップス・クラシックとインターナショナル・アーティストとして、長年契約を結んでいる。使用楽器は、日本楽器財団より貸与された1714年製作のストラディヴァリウス「ドルフィン」。

**ニコラ・アングレリッシュ**  
1970年生まれ。13歳でパリ国立高等音楽院に入学。ピアノ、室内楽、伴奏の各クラスでプルミエ・エプリ(一等賞)を受賞。カサドシュ国際コンクール、ジュー・バツカウアー国際コンクールなどで入賞。現在、オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽で欧米各地にて演奏活動を展開している。録音はヴァージナル・クラシックから、カプソン・レオンとの室内楽およびブラームスのソノ作品を出しており、高い評価を得ている。

●●●● MUSIC ●●●●

### 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル

[日時] 4月6日(日) 開演 17:00

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] ニコラ・アングレリッシュ (ピアノ)

[曲目] R. シュトラウス「ヴァイオリン・ソナタ 変奏長調 Op.18」 モーツァルト「ヴァイオリン・ソナタ KV454 ほか

[チケット(税込)] 好評発売中

一般:S席7,500円/A席6,000円/学生A席2,500円 メンバース:S席6,750円/A席5,400円

## 5 MAY ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

### 入魂のオール・ベートーヴェン・プログラム



初来日から40年。この記念すべき年に、稀代のベートーヴェン弾きとして円熟を深める巨匠ゲルバーが満を持して贈る、「悲愴」「ワルトシュタイン」「テンペスト」そして「熱情」という極め付きの名曲プログラム。

●●●● MUSIC ●●●●

### ブルーノ＝レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

[日時] 5月11日(日) 開演 15:00

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目] ベートーヴェン  
ピアノ・ソナタ第8番 小短調 Op.13「悲愴」 ピアノ・ソナタ第21番 長調 Op.53「ワルトシュタイン」  
ピアノ・ソナタ第17番 短調 Op.31-2「テンペスト」 ピアノ・ソナタ第23番 短調 Op.57「熱情」

[チケット(税込)] 好評発売中

一般:S席5,000円/A席4,000円/学生A席2,000円 メンバース:S席4,500円/A席3,600円

## 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (604席)

### ◆ ピアノ・エトワール・シリーズ



Vol.5 コルネリア・ヘルマン 7月5日(土) 14:00  
Vol.6 アンドレイ・コロベニコフ 9月27日(土) 14:00  
Vol.7 北村朋幹 12月13日(土) 14:00  
Vol.8 ロマン・テシャルム 2009年2月7日(土) 14:00

### ◆ メシアン・プロジェクト

メシアン生誕100年を記念して、彩の国さいたま芸術劇場・フィリアホール(棟演:第2・4回)・京舞館朝日ホール(東京:第5回)でプロジェクトを開催



第1回 レクチャール・コンサート (出演:児玉純・野年多美 他) 9月13日(土) 14:00  
第3回 児玉麻里&桃 比阿ノ・デュオ・リサイタル 10月25日(土) 14:00



パッサ・コレグウム・ジャパン バウハ(フランツ・リスト 協奏曲) 全曲演奏会 6月14日(土) 17:00  
ベルリン・フィルハーモニー 木管五重奏団 10月4日(土) 17:00  
マレイ・ベライア ピアノ・リサイタル 11月16日(日) 15:00  
澤澤まゆ子&荻村清志 デュオ・リサイタル 12月7日(日) 15:00  
堀 剛&小山雅雄 デュオ・リサイタル 2009年3月8日(日) 14:00

彩の国さいたま芸術劇場  
ランチタイム・コンサート  
リコーダー  
江崎浩司 rec.  
高群雅夫 com.  
長久真実子 cem.  
12月22日(日) 12:00

## 埼玉会館 大ホール (1315席)



Benjamin Lee  
NHK交響楽団 井上道義 cond. 7月13日(日) 14:00

新日本フィルハーモニー交響楽団 クリストフ・ウッショルト cond. 児玉麻里 pf. 10月12日(日) 15:00

埼玉会館 ランチタイム・コンサート

第4回 N響メンバーによる木管アンサンブル 6月16日(日) 12:10(終演予定12:50)

第5回 新日フィルメンバーによるトロンボーン四重奏 9月3日(木) 12:10(終演予定12:50)

第6回 東響メンバーによる弦楽四重奏 11月27日(木) 12:10(終演予定12:50)



三洲潤一  
埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ ペーター・グット cond.& pf. 鈴木康江 sod. 水口 健 ten. 2009年1月17日(土) 14:00

埼玉会館ファミリー・クラシック 東京交響楽団の仲間たち 2009年3月15日(日) 14:00

## 熊谷会館 (1468席)



熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ! 録音録音 cond. 朝岡健 MC 上野通明 vc. 東京交響楽団 7月27日(日) 15:00

## 光の庭プロムナード・コンサート

誰もが自然に音楽と解け合える空間 光の庭プロムナード・コンサート

彩の国さいたま芸術劇場 1階 情報プラザ  
毎回14:00(終演予定14:40) 入場無料  
4月19日(土) 吉賀智子(オルガン)、二宮律子(ヴァイオリン)  
5月17日(日) 秋本奈美(オルガン)、木村麻衣子(フルート)  
6月28日(土)、8月2日(土)、9月20日(土)、  
11月22日(土)、12月20日(土)  
2009年1月24日(土)、2月21日(土)、  
3月21日(土)



※やむを得ず公演内容に変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。

© 加藤英弘

EVENT CALENDER 2008.1.15-2008.3.31

1 January
15 水
16 木
17 金
18 土
19 日
20 月
21 火
22 水
23 木
24 金
25 土
26 日
27 月
28 火
29 水
30 木
31 金
2 February
1 土
2 日
3 月
4 火
5 水
6 木
7 金
8 土
9 日
10 月
11 火
12 水
13 木
14 金
15 土
16 日

17 日
18 月
19 火
20 水
21 木
22 金
23 土
24 日
25 月
26 火
27 水
28 木
29 金
30 土
31 日
3 March
1 土
2 日
3 月
4 火
5 水
6 木
7 金
8 土
9 日
10 月
11 火
12 水
13 木
14 金
15 土
16 日
17 月
18 火
19 水
20 木
21 金
22 土
23 日
24 月
25 火
26 水
27 木
28 金
29 土
30 日
31 月

3才以上のお子さんから楽しんでいただけ公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報 (~2008.3.22)

CINEMA 影の国シネマスタジオ ジャ・ジャンクー (買替特) 監督作品特集 『長江哀歌』・『世界』
どんなに世界が変わろうと、人は精一杯に生き続けるーベネチア国際映画祭金獅子賞グランプリ受賞作『長江哀歌』。若き巨匠ジャ・ジャンクー監督作品特集です。
チケット発売日 一般・メンバーズ: 1月18日(金)



CINEMA 影の国シネマスタジオ 『めがね』
チケット発売日 一般・メンバーズ: 2月15日(金)
日時=3月7日(金) 13:00 A / 16:00 B / 19:00 A
8日(土) 10:00 B / 13:00 A / 16:00 B / 19:00 A

PLAY 影の国さいたま寄席 四季彩亭 ~林家たい平
春の四季彩亭は、埼玉県秩父市出身「笑点」でもおなじみの林家たい平さんの独演会。どうぞお楽しみに。
チケット発売日 一般・2月2日(土) メンバーズ: 1月26日(土)



PLAY さいたまゴールド・シアター "Pro-cess3" 想い出の日本一萬年
チケット発売日 一般・2月9日(土) メンバーズ: 2月2日(土)
DANCE コンドルズ 埼玉スペシャル公演2008
チケット発売日 一般・2月9日(土) メンバーズ: 2月2日(土)

【チケットの購入は】 財団チケットセンター 048-858-5511 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)
【窓口営業時間】 ●影の国さいたま芸術劇場 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ●埼玉会館 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ●熊谷会館 10:00 ~ 17:00 (休館日を除く)

ACCESS MAP アクセスマップ
影の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 熊谷会館
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上郷3-15-1
〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2

発売中全公演情報 (1.18 ~)

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

**PLAY**  
**彩の国シェイクスピア・シリーズ第19弾「リア王」**  
 日時= 1月19日(土)~2月5日(火) 全18公演 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 出演= 平 幹二郎 内山理名 ほか  
 料金= 一般: S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円  
 メンバーズ: S席9,000円/A席6,300円/B席4,500円

**『身毒丸』復活**  
 日時= 3月7日(金)~4月10日(木) 全40公演 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 出演= 藤原竜也 白石加代子 ほか  
 料金= 一般: S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円  
 メンバーズ: S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円  
 ※本公演の当日券はメンバーズ料金の適用がございませんのでご了承ください

**源氏語り五十四帖 第42回「橘姫」**  
 日時= 3月16日(日) 開演14:00 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 料金= 全席指定: 2,500円

**MUSIC**  
**清水直子 ヴィオラ・リサイタル**  
 日時= 2月2日(土) 開演14:00 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 出演= オズガー・アーディン(ピアノ)  
 曲目= フランク: ヴィオラ・ソナタ 長調 (曲名= ヴァイオリン・ソナタ) ほか  
 料金= 一般: S席4,000円/A席3,000円/B席1,000円  
 メンバーズ: S席3,600円/A席2,700円

**児玉 桃 ピアノ・リサイタル ~メシアン生誕100年を記念して~**  
 日時= 3月1日(土) 開演14:00 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 ゲスト= 戸田弥生(ヴァイオリン)  
 曲目= ラヴェル: 夜のガスパール メシアン: よろこびの聖者のまじし ほか  
 料金= 一般: S席4,000円/A席3,000円/B席1,000円  
 メンバーズ: S席3,600円/A席2,700円

**パッハ・コレギウム・ジャパン パッハ《マタイ受難曲》**  
 詳細はP.16~17にて

**熊谷会館ファミリー・クラシック 仲道郁代 ピアノものがたり**  
 詳細は下枠にて

**諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル** 詳細はP.12にて  
**ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル**  
 詳細はP.18にて

**DANCE**

**『日本昔ばなしのダンス』井手茂太/康本雅子**  
 日時= 1月19日(土)、20日(日) 各日開演13:00・16:00 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 出演= 『かみなりむすめ』(作=酒藤麻介) 振付= 井手茂太 出演= 康本雅子 井手茂太  
 『さんみんねたろう』 振付= 康本雅子 出演= 井手茂太 康本雅子  
 料金= 全席指定 大人(高校生以上): 2,000円 子ども(3才以上小学生以下): 1,000円  
**ヤン・ファープル『死の天使』(ソロ・ダンス)**  
 詳細はP.12にて

**『videodance2008』シリーズ2**  
 詳細はP.13にて

**ダンスセッション2008『牧神の午後を踊る』**  
 日時= 3月1日(土) 開演19:00 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 料金= 全席自由 前売: 2,500円 当日: 3,000円

**ダンスセッション2008『本公演』**  
 日時= 3月2日(日) 開演17:30 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 料金= 全席自由 前売: 3,500円 当日: 4,000円  
 ※他、テクニク講習会、舞踊学会定例研究会等あり ※詳細は財団ホームページにて

**CINEMA**

**彩の国シネマスタジオ『街のあかり』(2006年/フィンランド/78分)**  
 日時= 1月18日(金) 13:00・16:30・19:00  
 19日(土) 10:00・13:00・16:30・19:00  
 20日(日) 10:00・13:00・16:30  
 ※1/19(土)13:00上映回終了後、志子親氏によるアフタートークあり  
 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督= アキ・カウリスマキ  
 出演= ヤンネ・フーティアネン マリア・セウヴェンベルム ほか  
 料金= 一般: 前売1,000円/当日1,200円 小中学生: 前売800円/当日1,000円

**彩の国シネマスタジオ『しゃべれどもしゃべれども』(2006年/日本/109分)**  
 日時= 2月15日(金) 12:45・16:00・18:45  
 16日(土) 10:00・12:45・16:00・18:45  
 17日(日) 10:00・12:45・16:00  
 ※2/15(金)12:45上映回終了後、埼玉大学落語研究会による落語上演あり  
 ※2/15(金)12:45上映回終了後、埼玉大学落語研究会による落語上演あり  
 会場= 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督= 平山秀幸  
 出演= 国分太一 香里奈 森永悠希 松重 豊 ほか  
 料金= 一般: 前売1,000円/当日1,200円 小中学生: 前売800円/当日1,000円

公演詳細は、財団ホームページ  
<http://www.saf.or.jp/>にて

SPECIAL PICK UP

すてきな音楽と楽しいお話でいっぱい  
 のピアノの世界へようこそ!

前回、埼玉会館で大好評だった「仲道郁代ピアノものがたり」が今回は熊谷会館にやってきます!  
 日本を代表するピアニストの仲道郁代さんが数々の名曲と楽しいお話でご案内するピアノの世界には、ピアノの魅力が驚きぎゅっと詰まっています。たとえば《星のどうぶつたち》では、みんなて音のイメージ遊びを、子ぎつねやキリン、竜や白鳥はいったいどんな姿をしているのか、イメージして来てくださいね。そのほかにも、ピアノについて物知り博士になれちゃう実験コーナーや、仲道さんへの質問コーナーなど、ピアノの面白さを体験できるコーナーが盛りだくさんです。親子で楽しめるこのコンサート、仲道さんに会いに熊谷会館に集まろう!



(2006年9月 埼玉会館の公演より、photo:加藤弘弘)

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

【日時】 3月22日(土) 開演15:00 会場= 熊谷会館  
 【曲目】 ベートーヴェン: エリーゼのために 田中カレン: 『星のどうぶつたち』より ショパン: 幻想即興曲 ほか  
 【チケット(税込)】 好評発売中 大人3,000円 子ども(3才以上高校生以下)2,000円 親子セット(大人1枚+子ども1枚)4,500円

(財)埼玉県芸術文化振興財団メンバーズ特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「優待」で「嬉しい特典」がもらえる付きます。  
 ・年会費2,000円 【メンバーズ料金】 財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF  
 【財団情報】 彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている情報誌(隔月発行)がお手元に届きます。

【優待先約】 一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。  
 【プレオーダー】 人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。 ※指定席の場合、お席は抽選になります。  
 【レストランでの割引】 彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事をご2名様まで10%OFF。  
 【ポイント制度】 チケットを購入するとポイント貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。  
 ※チケット購入金額10円につきポイント1ポイント(1ポイント1円)にて換算されます。  
 【キャッシュレス】 チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落しになります。  
 【チケットの安心無料送料】 ご購入いただいたチケットは、セキュリティパックにてお届けいたします。

information インフォメーション

さいたまゴールド・シアター本紹介

「さいたまゴールド・シアター」のこれまでの活動が  
 1冊の本になりました!

共同通信社と埼玉新聞社の記者たちが、長期にわたり丹念に取材した感動のドキュメント。蛭川幸雄とさいたまゴールド・シアター団員の演劇、そして人生に賭ける熱い想いと、彩の国さいたま芸術劇場を舞台にした様々なドラマが描かれています。「老い」と向き合い「人生」を見つめ直す、そこには新たな可能性が見えてきます。多くの皆様にお読みいただきたい一冊です。



【著者】平凡社新書  
**【蛭川幸雄と「さいたまゴールド・シアター」の500日 平均年齢67歳の挑戦】**  
 【著者】 橋田欣典 須賀綾子 瀬瀬亮子 【出版社】 平凡社 【料金は】 735円 (税込)

彩の国さいたま芸術劇場窓口でもお求めいただけます。

現代演劇ポスター展 一新国立劇場情報センター所蔵品による  
 20世紀末から21世紀幕開きの現代演劇界を振り返る

新国立劇場情報センターの所蔵する3,000点にも上る「現代演劇ポスターコレクション」から、1998年~2003年の演劇関係のポスター100点を展示します。演劇作品として優れた作品から、デザインの素晴らしい作品など、各年の代表的な作品からは、その時代の流行や事件など、様々な情報を読み取ることができそうです。見る人によって様々な切り口でお楽しみいただける本展に一度足を運びください。



【日時】 2月19日(火) ~ 9:00~22:00 休館日を除く  
 【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 ※入場無料

サポーター会員 H19.12.5 現在

- (株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス (株) / (株) エフテック / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 (株) テレビ埼玉ミュージック / 金井大道具 (株) / 埼玉りそな銀行 / (株) パシフィックアートセンター / アサヒ印刷 (株) / FM NACK5 東京電力 (株) 埼玉支店 / 東京ガス (株) 埼玉支店 / 埼玉県信用農業協同組合連合会 / カヤバシステム マニャー (株) / (株) 八木橋 (株) タムロン / (株) オメガダム / (株) 十万石ふくさや / 森平舞台機構 (株) / 日本データコム (株) / (株) ビルナー / 東芝ライテック (株) 埼玉トヨタ自動車 (株) / リズム時計工業 (株) / (有) 齋賀設計工務 / クレディ・アグリコル / アセットマネジメント (株) ソシエテジェネラルアセットマネジメント (株) / (株) スズセン / (株) 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルバインズホテル / (株) アルビーノ国際照明 (株) / (株) 松永建設 / (株) サイザン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボリング (株) / あいおい損害保険 (株) 埼玉営業部 (株) ショーモン / 埼玉スバル自動車 (株) / (株) 木下フレンド / (株) 東玉 / 桶本興業 (株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 (株) しまむら / アイジャパン (株) / (株) ウム・ヴェルト・ジャパン / (有) 六辻ゴルフセンター / (株) オリエント / 不動開発 (株) (株) 明成 / ホッカイエムアイシー (株) / 埼玉県信用金庫 / (有) 武蔵興産 / (株) 栗原運輸 / (株) エコ計画 / 彩の国SPグループ (有) ブラネッツ / (株) イヤホンガイド / トキタ種苗 (株) / 関東自動車 (株) / 日本ピストンリング (株) / (株) クマクラ / (株) デザン 亀井産業 (株) / (株) グリーン企画社 / (有) 高信 / (有) 中島運輸 / (株) 国際ビジネス研究所 / セントラル自動車技研 (株) (株) Liviko / (株) アズマン / 太平洋セメント (株) / (株) ビー・アンド・イー・ディレクションズ / 朝日新聞 伸光堂さいたま販売 (株) 丸美屋食品工業 (株) / マツヤハウジング (株) / 日立キャビネット (株) / ボラグループ / 伊田テクノス (株) / (株) リゾン / ひしが歯科 埼玉建興 (株) / (株) 日産サディオ埼玉 / 埼玉トヨペット株式会社 / (株) あいおい保険総合サービス / 公認会計士 宮原敏夫事務所

「サポーター会員」入会のご案内 埼玉県芸術文化振興財団では、財団の活動を支援していただける法人、団体又は個人の方を対象にサポーター会員の募集を行っています。  
**【入会による特典】** 劇場内サポーターホールへの会員名掲載 ・ 「埼玉アーツシアター通信」やホームページの会員名掲載 ・ 劇場内広報用パンフレットなどの利用 ・ 財団主催公演へのご招待 ほか  
**【年会費】** 10万円 (有効期限は、入会月から1年間となります。) 【事務局(問い合わせ先)】 (財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5500 (代)

パリの冬は、涼の中での生活を楽しむ季節でもあります。最近の私は料理に夢中。食材をいいねいに料理し、テーマに沿ってテーブルをしつらえ、花を飾り、ときには、親しい人々を招く。そんなとき、マルシェ(市場)は欠かせません。有機栽培の野菜はモスルン、肉も魚も、とれたたて新鮮なものが手に入ります。今日のように晴れた日のマルシェは、最高に気持ちが良い、色とりどりの野菜棚に、花屋の緑。鳥の声とともに、音楽が聴こえてくるようです。

ふと、昨年の夏の思い出がよぎります。ラ・ロック・ダンテロンの野外音楽祭で、メシマンの未発表作品《ヴァイオリンとピアノのための幻想曲》の初演を果たした、私にとって記念すべき夏。メシマン未亡人で優れたピアニストでもあるイヴォンヌ・ロリオ先生に、その大役を託された喜びが蘇ります。音楽祭のステージは自然の真っ口中にあり、南仏の太陽が照りつける日中にピアノを出しておくことはできず、鳥たちがにぎやかに歌う早朝に練習して、一旦ピアノをしまい、日暮れからがコンサートに。まだまだ鳥はさわめいていたのに、初演作品の演奏を始めた瞬間、鳥たちが敬意を表したかのような静寂が訪れたのです。私は、音楽と自然が一体になること、すばりに響くほど感動！

来年3月の日本でのリサイタルでは、フランスの色彩とともに、メシマンの哲学や信仰、また彼が愛した自然の美しさを、明るい陽の光や鳥のさえずりを伝えたいです。

Artist Diary

パリのマルシェで 11月22日木曜日

文＝児玉 桃

イラスト＝山本 翠

